



伊那ロータリークラブ



事務所 伊那市西町5016-2 TEL(72)0077 例会日 毎週木曜日 会場くぬぎの杜 TEL(78)1121

会長 小河節郎 幹事 鈴木正比古 会報委員長 八木沢真 第3076回 例会2025.9.25 No.1676

**UNITE
FOR
GOOD**



Rotary
第2600地区

よいことの
ために
手を取りあおう

ソング 君が代・奉仕の理想 四つのテスト 職業・社会奉仕委員会 会長談話 小河節郎会長

先週の職場例会は、大勢の会員に参加をしていただきましてありがとうございました。信州大学農学部のスバラしさをご理解できたのではないのでしょうか。



パレスチナにあるエルサレムという都市は、「キリスト教」「イスラム教」「ユダヤ教」の聖地ですが、世界中の関心を集めています。ここでの紛争は、「宗教対立」と言われていますが、この対立・紛争は、何千年も前からの争いであるかのように思われていますが、実はそうではなく、長い間宗教の異なる人々が仲良く共存していました。大きな紛争になったのは、たかだか100年前にすぎません。

1993年にイスラエルとPLOの間で結ばれた「オスロ会議」に基づいて、両地区は「パレスチナ自治区」になりましたが、ガザは現在もイスラエルに軍事閉鎖されています。

先日テレビ番組で、パレスチナの紛争問題が放映されました。このことについて、イスラエル市民でのインタビューでは、この紛争は「神のお告げ」です。「我々は領土を取り戻さなければならない」とか「パレスチナ人は皆殺しにしなければならない」など、過激な言動に驚くばかりでした。正に宗教戦争そのものの何物でもありません。

日本の神様は、唯一主義ではありません。八百万（やおよろずの神）と言われ、多くの神様が存在します。そして日本国民全員が氏子であり、氏子の中に仏教人やキリスト教が存在し、みな仲良く暮らしているのが日本です。

日本では古来より神仏習合の考えがありました。この神仏習合は、平安時代後期に大きく発展した思想です。日本古来の神々と、外来宗教である仏教の仏たちを、対立させることなく共存融合させた宗教文化のことで、平安時代にはじまり、明治まで約1000年続きました。

現存するお寺に鳥居があるなどのお寺は数多くありますが、神仏習合のなごりだと思われます。

話は変わりますが、昨日の新聞に神仏習合に関する行事が紹介されていました。岡谷市の平福寺と正八幡社が「宗良（むねなが）親王の640年慰霊祭」を開いた、と報じられています。慰霊祭は神仏習合のなごりで、「宮司が祝詞を上げ、住職が玉串を奉納した」と報じられています。

一方昨日、韓国の某宗教のハン総裁が逮捕されたとの報道がありました。この宗教団体の施設は膨大で、施設を含む莫大な資産は兆円規模となり、その資金を含む資産のほとんどは日本の信者からむしりとったものだとの報道され、日本の被害者に弁済しなければならないとも述べています。

本来の人を助けるべき宗教が、金と権力のための宗教になっている。日本の神道のスバラしさを認識した今日この頃です。

誕生祝

中川博司 清水紀光
飯島松一

結婚記念日祝

中山一郎 藤本和寿

在籍祝 宮下 裕(21)

幹事報告 別紙をご覧ください

理事会報告概要

1. 10月のプログラム 2. 納涼会収支報告 3. 退会者について 4. アル信振替手数料改定について

委員会報告【ロータリーの友】9月号紹介

基本的教育と識字率向上月間 本郷一博副会長
横組み P2~RI 会長メッセージ「ロータリーに課せられた使命は明確で、私たちが奉仕する地域で人類の学びの土台を支えることです」と述べている。P26~「ロータリー米山記念奨学事業の基礎知識」

縦組み P2~「生成AIの全貌」



出席報告 会員数 50 名 内出席免除者 16 名
出席者 26 名 事前ミーティング 2 名 出席率 68.29%

ニコニコボックス

- ・藤澤秀敬、本郷一博 メキシコ在住の同級生が叙勲を受章したため、仲間とお祝いしました。
- ・松沢啓治 本日、卓話をさせていただきます。

ラッキー賞

唐木 拓 唐澤洋祐
中川博司 平出吉範
小松肇彦 八木沢真
三澤 聡



会員卓話

中部電力パワーグリッド㈱

伊那営業所長 松沢啓治 会員 演題-「私の履歴書」

私は昭和 44 年 12 月に、飯田市松尾で松沢家の次男として生まれました。幼少期は、松尾保育園に通い、その後、松尾小学校、緑が丘中学校、飯田高校へと進学しました。私が生まれ育った飯田市松尾という地域は、この伊那地域と同じく、天竜川の河岸段丘に位置し、冬でも雪もそれほど多くなく、自然に囲まれた過ごしやすい場所で育ちました。



小学校時代には、当時長野県で開催された「やまびこ国体」の影響もあり、ラグビーを始めました。自宅近くの飯田市総合運動場でラグビー競技が開催されたこともあり、地元のラグビースクールに数年間所属しました。ラグビーを通じて初めてチームプレーを経験したことで、チームワークの大切さや、仲間とともに目標に向かって努力することの素晴らしさを学びました。

中学時代は、入学と同時にサッカー部へ入部しました。サッカーは私にとって大きな情熱の対象となり、中学、高校、そして社会人になっても続けてきました。会社に入社した頃は、弊社内でもクラブ活動が盛んであり、会社のクラブに所属し、社内での大会に参加するとともに、上伊那の社会人チームにも所属しました。南信リーグや県リーグでの活動を通じて、多くの仲間と出会い、貴重な経験を積むことができました。特に、当時まだ北信越リーグで活躍していた山雅との試合や、AC長野パルセイロの前身である長野エルザとの試合は、今でも鮮明に記憶に残っています。30 歳近くまでサッカーを楽しむことができたのは、私の人生において大きな財産となっています。

スポーツ以外では、中学時代には中学校の教師になることを夢見ていました。しかし、高校に入学してからはあまり勉強が好きではないことに気づき、また、成績も良くなかったため、教師になる夢は早々にあきらめました。そして、高校卒

業と同時に就職することを決意しました。

昭和 63 年、私は中部電力㈱に入社しました。当時は現在のように、中部電力パワーグリッドや中部電力ミライズといった分社化はされておらず、長野県内には飯田支店と長野支店がありました。私は飯田支店に採用され、入社当時は飯田営業所で、メーターの検針を行う部署に配属されました。現在はスマートメーターという遠隔で使用量を計ることのできる計量器が普及していますが、当時はまだすべてのお宅に検針に伺い、電気料金を算出していました。このような業務を通じて、地域の方々とのコミュニケーションの大切さを学びました。

その後、駒ケ根市の辰見町にあった駒ケ根営業所へ転勤となり、それから長きにわたって上伊那の地でお世話になることとなりました。会社生活は 37 年になりますが、そのうち上伊那地域での勤務が 20 年、伊那市での勤務は 15 年と、会社生活の半分以上を上伊那で過ごしてきました。今回の伊那営業所への転勤が、伊那勤務通算 5 回目の勤務となっています。

伊那以外での勤務は、すべて県内となりますが、佐久市、上田市、長野市と東信・北信方面での単身赴任生活を経験しました。初めての単身赴任の地は佐久市でしたが、南信地域から見た東信地域のイメージは非常に遠く感じ、非常に不安だらけで赴任したことを今でも覚えています。しかし、佐久での勤務は私にとって忘れられないものとなりました。

というのも、私は 28 歳で結婚しましたが、10 年間子供に恵まれませんでした。しかし、佐久へ転勤になった年に子供を授かることができ、結婚 10 年目で長女が生まれました。その後、佐久での単身赴任が終わる年に長男が生まれ、現在は妻と子供二人、私の母親の 5 人で高森町に暮らしております。

長女は現在高校 2 年生、長男は中学 3 年生となり、長女はバレーボール、長男はバスケットボールをやっており、今はそれぞれの大会や試合を応援に行くのが楽しみとなっています。

また、数年前に子供たちが遠征に行く際には、マイクロバスを借りて移動することがあったため、中型の限定解除の免許を取得しました。娘が中学生の頃は、チームの人数も少なく、運転する機会がなかったのですが、高校に入学し、上級生の夏のインターハイが終わってから、免許取得後初めてマイクロバスを運転して子供たちを遠征に連れていく機会もできています。

以上が私の簡単な履歴書です。これからも伊那 RC の一員として、地域に貢献できるよう努めてまいります。

本日はお時間をいただき、ありがとうございました。